



● 経緯

火山に関する研究開発のあり方について調査するために、令和2年に科学技術・学術審議会 測地学分科会に**火山研究推進委員会**が設置。

● 背景・設置目的

- 我が国の火山研究は、昭和49年以来、**火山噴火予知計画（現；災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）**）に基づき推進され、火山観測体制の整備がされてきた。その間、噴火の発生機構など現象の理解が進み、観測網が整備された火山では、噴火の時期や場所の予測はある程度可能となったが、噴火の規模や様式、推移の予測は依然として困難。
- 平成26年9月に発生した御嶽山の噴火等を契機に、平成28年からの10か年のプロジェクトとして「観測・予測・対策の一体的な火山研究及び火山観測データの一元的流通の促進」と「広く社会で活躍する火山研究人材の裾野の拡大と、火山に関する広範な知識と高度な技能を有する火山研究者となる素養のある人材の育成」を目標とする「**次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト（火山プロジェクト）**」が開始。
- 同プロジェクトは令和7年度に終了が予定されており、その成果の継承に係る次のような中長期的課題を認識。同プロジェクト終了時までにはその検討を行うこととした。
 - ✓ 過去からのデータの蓄積
 - ✓ 基盤的な技術の開発及び継承
 - ✓ 育成した人材の受皿
 - ✓ その他（定常観測の継続、活動度の高い火山をフィールドラボとした観測研究体制の構築等）

- 
- 令和2年度に現行の火山プロジェクトと並行して早期に取り組むべき課題について議論。
 - 中長期的課題を議論し、実施を目指す上で必要な基盤を成すものとして、**機動観測体制の整備を「早期に取り組むべき課題」と位置付け。**

背景

- 次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト（火山プロジェクト）は令和7年度に終了予定
- 火山研究推進委員会では、火山プロジェクト終了後の成果の継承について、5年後までに解決すべき課題（中長期課題）として認識

検討の方向性、考え方

中長期的課題の解決に向けて、現行の火山プロジェクトと並行して「早期に取り組むべき課題」を抽出：

- 火山プロジェクトの成果を実装した系統的な機動観測を実現するための、**機動観測体制の高度化とその早期の整備**
- 多様な噴火様式を有する海外火山での機動観測の機会を得るための、**海外火山研究機関との関係構築**
- 地球物理学者と関連分野の研究者との連携のさらなる強化

早期に取り組むべき課題

機動観測を円滑に実施するためのマネジメントを可能とする**事務機能の構築**

- 観測計画の策定、機動観測に係る研究者の派遣及び機材の調達・維持管理を一元的に行うための、**高度人材の登用と共用資機材の配備**

(取組例)	- 機動観測チームの構成員（データ収集班及び解析班）の検討	- 複数の火山の比較研究を行う際の観測項目の検討	- 許認可申請の一元化
	- 新しい手法の評価・開発	- 観測手順の統一	- 機材の一元管理・相互貸与 - 国の機関との調整

- 海外研究機関との長期間の取組により信頼関係を構築するための、**国際対応の恒久的な窓口の整備**

(取組例)	- 海外火山研究機関における国際的な研究協力の動向調査	- 海外研究者・留学生・研修員の招聘
	- 研究者の長期派遣・緊急派遣	- 学術交流協定・国際共同研究の推進 - 外国政府の規制への対応